

みずつき

10



「水」がテーマのアンソロジー 2021年初夏

2021年初夏 「水」がテーマのアンソロジー みずつき 10

発行：2021.06.07 | 短歌：ご寄稿くださった皆様 | 企画・編集・装丁：千原こはぎ



mizutsuki 10
<http://kohagiuta.com/design/mizu10/>



mizutsuki 10
<http://kohagiuta.com/design/mizu10/>

とほり雨

とほり雨みたいいなひとがわたくしを濡らして帰りゆく夕まぐれ
水圧の弱いシャワーを浴びながらふたりなんにも話さなかった
わたくしに滲は流れる あぢさゐににほひがないと知ったときから
泣かないときみに背中を向けてゐる水分量の足りない肌を
なまぬるくなつた麦茶を飲み干して美味しかったと言ふろくでなし
自販機から消えてしまつたボルヴィック きみが残っていた吸殻

龍翔 @oppizuntsuan

さよなら夏よ

蒸し風呂のような部屋を抜け出してアイスを買に行く道も夏
梅雨明けの湿気と長い踏切と退屈な日々大切な日々
青春は通り雨より一瞬で終わる僕らは大海の舟
悔しいと泣けど水面のひとしずく前を向こうとたれかが言つた
湖に沈む鞘などないので勝ちは傷つき足掻き得るもの
大好きなひとと遠のく蟬時雨さよなら夏よ僕は進む

ルオ @ruo129

水玉初恋譚

皆が言う「憂鬱な週の折返し」俺にとつて君に会えるシフト
灰色の古いシーツを水色に買い換えました 遊びにおいて
停電の寝室にただ息の音と水音響く 海の香りだ
白鳥の舞う池に寄り湖の淵から落とされるように眠りへ
水色の背景よりも赤と黒 金色が似合うあなたが好きです。
人生は流れるものだが 循環も戻りもしない ただ淀むだけ

Redvelvetcake @R_velvet__Cake

あおとき 青時	くろすさりな 黒須紗里菜	たかこ 多香子	みかげことは 深影コトハ
あおきこのは 青藤木葉	こうげつしずり	たきぐらみわ 瀧口美和	みみ 衣未
あさかず 麻数	こがつにうまれた、 5月に生まれた、	たむらほだか 田村穂隆	みやじまいつく 宮嶋いつく
あめのうずめ 天野うずめ	こがゆみこ 古閑弓子	うの 茅野	むつうみでのすけ 六浦筆の助
あめかうしとしひろ 雨虎俊寛	こごともり 漕戸もり	うはうこはぎ 千原こはぎ	むうたかずひろ 村田一広
あうたなのい 新棚のい	さいとうさと 西藤智	つきがうず 月硝子	やまがみあきえ 山上秋恵
ありむうききょう 有村桔梗	さかわみずき 酒匂瑞貴	どうなしゃくかう 堂那灼風	ゆかり 悠佳里
えいじ 泳二	ささきもえ 佐々木萌	なかむらせいじ 中村成志	ゆや ゆき
えだまめみどり 枝豆みどり	さとうはな	ナタカ	ゆりこ
おかだなぎさ 岡田奈紀佐	しおもとにざんはういう 塩本。2381	なうはうもか 檀原もか	よるよなかさりとて 夜夜中さりとて
おざきひろこ 小崎ひろ子	しまださくうこ 嶋田さくらこ	にしじゅんこ 西淳子	らま
おりはうさき 折原咲樹	しみずはるか 清水晴架	ぬまじりつたこ 沼尻つた子	りゅうしょう 龍翔
かいぜん @kaizen_nagoya	しゃーちん 西鎮	ネコノカナエ	ルオ
かじはるかずと 梶原一人	じゃっくまめ 雀来豆	はりさきやう 玻璃砂丘	れっどべるべっとけーき Redvelvetcake
がね	すずきともこ 鈴木智子	はろはうしおん 春原シオン	
かれいど 涸れ井戸	ずわあかり 諏訪灯	かえちしずえ 笛地静恵	
かわざしけいと 河岸景都	せいや	かくやまもか 福山桃歌	
きくうひろかつ 菊池洋勝	セサミスペース M	みじたまか 藤田美香	
きみむらうい 君村類	そのづかはる 園塚はる	かじもりみさき 藤森岬	
きりのれい 桐野黎	たえなかずず	みううなつ 三浦なつ	

ご参加
いただいた
皆さま
(五十音順 敬称略)

みずしず

10

74名による444首の「水」がテーマのアンソロジー

夏の雨

童宮の門をくぐれば海の街きみと渡った島を背にする
夏の雨 江ノ電乗ればサイダーの瓶をしゅわりとただよう心地
134号線に躍り出るあの日も雨模様でしたよね
大切なものを犠牲につよくなるもう泣かないで稲村ヶ崎
雨上がり神域よぎる江ノ電の車窓いっぱい光る紫陽花
思い出にテールライトがやさしくてきつとふたたびかえる鎌倉

青時 @madobenounibe

溢れ出るもの

青空にまつすぐ伸びる噴水を見上げて待った虹と恋人
水槽の水の音さえ煩くて溺れてしまう孤独の海に
溢れ出る感情何か分らずに水を求めて向かうコンビニ
寂しさを埋めるように降る雨は優しく光り染み込んでゆく
雨音を聞きつつ家事をこなしてく全てが水に流れてしまえ
ただそこに彫刻のように佇んで頬を流れる泉を見てた

ゆや ゆき @yuya_yuki_tanka

坊主頭

旧盆に本家へ集まる親戚の多さに母らは本音を隠す
叔父さんの消防車から放水をすれば夏だと思うおさなご
おさなごは我れ先に濡れ冷たさで唇染まる青紫に
遠戚の坊主頭の双子らは今も元気が真つ黒な顔
杖を売る仕事をしている兄の方フェイスブックで偶然に知る
髪は減り少し太ってあの頃と変わらないのはシルエットだけ

φ(〇) @b7282e_akanairo

淡い光源

川がある街に住みたい夜の果ていつでも水に還るように
起き抜けに流す涙は朝露です孤独はどこか美しいから
水で落ちなかった汚れがついたままシャツは窓辺ではためいている
スキップの練習をする水溜まり跳ねたくらいで泣かないために
希望とはこのことだろう車窓からだんだん見える瞬く水面
朝焼けを包んだ風を受けながらいつかの波止場で君を待ってる

青藤木葉 @konoha_ao

ためいき

ぬるま湯で一人半身浴してる。昨日の僕がゆつくりとける
豊かさを維持するセンスが無さすぎて飲んでたマグで花に水やる
デザートをジュースで食べる人だつてわかっていたら誘わなかった
雨の日に流した曲が洒落すぎて今日はこの後晴れなくていい
水平線手前で沈む色々な人の言葉は多分無機物
大袈裟なため息湯船で吐き出せば今日のエンドロールが流れる

麻数 @numberhemp

さうば

過ぎ去つてまたやってくる灯台の明かりを、だからまだ信じてる
海霧は立ちこめるだけ立ちこめてまつすぐ向くという回り道
あ、落ちた それでようやく雷を雷たらしめる過去の音
はじまりも終わりの光 雨粒のひとつひとつが彼らを終える
波にも白いところと白くないところ 暗闇の中では気付かない
さらば夜さらば終わりのない航路 まず瞳から朝焼けていく

夜夜中さりこて @yorusari

過去

みどりごを見し母見やり飲むコーラ骨まで溶かすジんクスのせめ
何となく買ったダイエット・コークに何れを覗たいか見抜かれてゐる
青色のサンタを想像してひとり落とし穴には自ら嵌まる
ペプシマンを全身タイツの不審者と疑わなかった 夏が眩しい
足漕ぎでふたりの時を駆けつつ波止場はいつもCokeのベンチ
悠久の琥珀のやうに放課後を閉じ込めて呉れクラフトコーラ

うめ @llama_miyashita

川辺の棲みか

京成線千葉へと抜ける橋の上 生まれし川辺セピアに見えて
教科書に「地盤沈下」で載るフォトは祖父母が生きた尼崎なり
離婚した父母と乗るタクシーはもう動かない勝間橋を
多摩川を越えて電車で職場へと のどかな休日さよならまたね
八月に浅川沿いを自転車で風に飛び込むさやかな幸
川辺へと棲みかをやはり戻す我 水の流れをなぜか求めて

六浦筆の助 @Tohakumutun5057

雨が連れてきた物語

雨宿り 待ちはじめたる順番に迎へが来るといふわけもない
暴風雨に桜は震へ花びらをぼろぼろこぼすフロントガラス
ひいふうみい、もうすぐかなつ プレーキを踏むたび雨の猫を拾つて
街の色消し去つてゆくスコールに薔薇とリップの赤の点描
いひかけた君の名は気泡につつまれて幾つ漂ふ湿つた車内
もつと森深く ここですと駆けこんだ廢墟の窓の君に雨ふる

村田一広 @mucci2018

テーゼ

あちこちにある水たまり悲しみを見出せなくて避けてしまった
音程が外れてしまったピアノのよう狂ってしまった雨を聞いている
雨が降り続く映画のエンディング待つことだって愛かもしれない
納得の安心感を持ちたくて鞆に入れる折りたたみ傘
はつなつの定義教えてくれないか光集める君のいるはず
想像の世界の狭さ仄暗い海の匂いを知らずに育つ

天野うずめ @uzume_no_hijiri

あの頃のように

〇の字の路線図をゆく あの頃にオンボロ車でもあったなら
きみのこと並走して快速が追い越すときの車窓に探す
改札を通りたいのに精算機が調整中でチャージできない
一浪の頃とほとんど変わらないとさみしい波止でつぶやいている
イヤホンをわけあい聴いた曲をいま右耳にだけ再生してる
夕暮れが間もなく閉じる イヤホンを黄色い係留ビットに舐う

雨虎俊寛 @amefurash3107

あたらしい涙を

半分だけ目覚めた今朝のわたくしは水で薄めたアイスコーヒー
なつかしい緑の傘と赤い靴 今日のかたつむりに逢いに行く
ふるさとの色とりどりのトタン屋根六十色のクーピーで描く
こんなにも話し相手が絵本では言葉も透明水彩になる
あたらしい涙のための目薬がああ雨雲から落ちてくるから
水のような孤独の満ちてくる夜はフェニックスの木に抱きついていたい

山上秋恵 @akemuroran

水と2歳児

水たまりに靴でつつこむ君だからタライの水ともすぐに友だち
洋服が濡れるのはイヤ 脱ぎ捨てたズボンを照らす初夏の太陽
君と私 風の吹く音水の音 青いタライと混ざる色水
「みつきーのおりちよーだい」次々と水を水に沈める仕事
「寒くない？」心配しても「まだ遊ぶ！」子を引きとどめる水の魔力よ
次回用の氷を作るいい顔の「たのしかったね！」また聞きたくて

悠佳里 @ujari_rito

Polydipsia

外来の待合室のヤクルトの自販機ばかり明るい夜に
ジェラピケのパジャマを見せる友達がいらない洗面所の水まずい。
面会のママに麦茶をぶち撒けた後悔はない反省もない
格子窓越しの世界は土砂降りの雨が続いてダルさがバないな
傷だらけダメージデニムより酷い右腕お湯が滲みて痛いし
水中花それになりたい永遠に閉じ込められるなら美しく

新棚のい @hccmono

はつなつ

真夜中のみづ飲み干せばわたくしのまなこに届く他界のほのぼ
はつなつ、と口に出したらたちまちにあふれてしまふ噴水がある
やはらかな愛撫のやうに雨が降る 天気予報を裏切りながら
五月雨をあつめてしまふさみしさの透きとほるまで空をみてゐる
さみしさとさびしさにある サイダーとキリンレモンほどの違ひが
ゆぐぐれにすこしおほめに塩をふる海の記憶を持たないひとよ

有村桔梗 @chattenoire_k

雨音

目が覚めて聞こえる雨の音 僕はペットボトルのふりをやめない
眠たげな小さな声の一滴をゆっくり飲み下すように聞く
「今日何位だった？」「雨やむ？」うざいから朝のテレビを見るようになる
雨の日は少し近くにいるような気がする 何回も領いて
少しずつ満たされてくるちゃぶちゃぶと君には聞こえないだろうけど
冷えてないウィルキンソンを少し飲むさっきの君の声に似ている

泳二 @Ejishimada

まちがいだうけ

かなしみをなかったことにした罪でランゲルハンス島まで泳いだ
ゆるされて海の碧さの中にいる ここはかつての風葬の丘
それはまたべつのおはなし シロップに浸かる桃にも言い分はある
曲がるのに曲げないままで吸うストロー優しい人は少し間違う
あの、海はどちらですかと訊くひとはなぜ僕なんかを信じるのだろう
囁きはいつか銀河になりました 詩人が死んだあとのことです

枝豆みどり @edaname_midori

神になる

はつ夏のうす水色のベビーバス泡で命を包みゆく午後
湿原のように遙かな身を持ちて子の泣きながら育ちゆくこと
息継ぎのようにわたしに抱きついてまた離れゆく子どもの往復
北国の水はいつでも冷たくてまだ頂きに雪纏う山
スコップで砂場に山と海つくり水を流して神になる子ら
晴れた日も傘さしてゆく子の道が雨の調べに満ち満ちてゆく

三浦なつ @natsumiuraok

ポリッシュ夜の営みについて

一週間前の私の傑作を綺麗に落とし夜は始まる
目薬をマニキュアに挿せばマニキュアに光が戻るのです 光あれ
パーソナルカラーではない色を塗る爪は鎧にも花束にもなる
海の色人魚の鱗さみしさを塗り重ねても皆ちがう青
ポリッシュはどここの国のと君が訊くポリリズム諸島だと答える
マニキュアが乾く頃には真ん中へ昇る月です ねえ光あれ

深影コトハ @cotoha_mikage

バスタブ・オフィーリア

つまずきとよろめきどちらでもいいよ仕事帰りのドラッグストア
雲色のマニキュアを乾かしている間に雨の季節へ到る
野の花の香りの入浴剤を入れ身体を折ってあお向けになる
オフィーリア このままわたしが絵になれば誰が最初に気づくだろうね
木曜は燃えるごみの日やさしいと言われたことも袋の中へ
揺れるのは水、炎、スカートの裾 わたしは意外とびくともしない

岡田奈紀佐 @spice16g

水無月の馬

旅先のきれいな水に透ける陽のその先にある夏の輪郭
そのたびに〈失意〉に出会ひさうになるいつかどこかで出会った君に
持ち帰る花束ながくうつくしく透明の瓶のいまどきの水
咲き誇る色を残して部屋隅に真紅の薔薇のドライフラワー
いつだつたかも定かではないままに出会ひも別れも雨音の中
雨粒のひとつとなりてこれの世をいつかうるほす水無月の馬

小崎 ひろ子 @hioritsukimiru

六月

忍者でも連休明けは憂鬱でやたらと筒を飛び出すあぶく
今日だって水滴弾く肩と腕ひとりでもまだ生きていけそう
一番にわたしのことを知っている風呂呂にもついて来ているスマホ
急がずにゆっくり白湯を飲んでいる熱く優しく生きる水曜
手作りの下手な皿から水を飲み生きてる猫を愛おしく見る
点描画みたいに雨は降り出して僕らの胸を濡らしてゆきぬ

衣未 @mimi_4567

天の恩恵 山の恩恵

石清水湧き出す音を聞き入れば天地の悠久の子守歌
山並みを覆った雲は薄らいで全ての川は海へと下る
岩盤に染み入っていく幾星霜伝えてほしい吾が血流に
落ち葉踏む足に命の脈をみる水気の香るぶな原生林
人は人の業で命を保ち得ぬ天の真名井の澄みきった水
湧き水で淹れた珈琲飲むひととき天地を創った方は善良

宮嶋いつく @miyazima_izq

村童とかみなり

真つ黒の雲に頭上を覆われて麓の村の灯に気づく
虫かごはランニングへと雨つぶの当たらぬように胸へと抱く
稲妻に背中を押され脅かされ一本杉へ落ちろと祈る
くちびるへふきこむ雨を吐き出して山の斜面をすべる転がる
ようやくに村のはずれの七地蔵 傘のかたむき片手で直す
パンツまで濡れたちんちんそのままに沸かし直しのお湯へとびこむ

笛地 静恵 @ymcx6rhzyEzgwq

退屈な青

それぞれの生活がありどこまでも海は青だよ退屈な青
さざ波が町を揺らせばささやかな願いも泡になって消えるね
抜け出せば何か変わると言うあの子よせばいいのに越境入学
自転車チェーンは赤く錆びていて吸い込む空気がよつとよつぱい
潮風は決して涙を乾かさず周回遅れで届く流行
海が母ならば到底許されぬ祈りを授けて広がる波紋

福山 桃歌 @momoka_fukuyama

桜桃 cherry 2020

天気雨ふるふる弁当屋の屋根の上屋下がり夜勤明けの人
おばあさんわたしがなる頃この記憶湖に浮かんでいるポート
よそ行きで会おう懐かしい河原とか「愛しています」永遠誓う
泡立ったクリームソーダ食べる夜君は何でも混ぜて食べてた
黒髪は海上戦で血を流し私は艦尾にはりつく藻屑
聞こえるか記憶は地層いま解ける溶け始めた雪 春はこれから

折原 咲樹 @sak3orhr

手洗い

立ち上がり水栓使い手を洗う家にいる前我が家の習慣
蛇口には三回水をかけてます自動水栓なっていない
指先とくるぶし手のひら指の中爪少し立ていたくないほど
入り口に蛇口のある店嬉しいね大きなよこれが流れ堕ちゆく
トイレでは自動水栓増えてきて基本設計項目にする
仕事場も外に水栓あるとよし。みんなの手洗い習慣になる。

@kaizen_nagoya @kaizen_nagoya

六月の犬

ぼつりぼつり 呟くように降る雨の隙間を急ぎ足で行く犬
公園の蛇口に鼻を摺り寄せて「開けて」と犬が「はい」と私が
オッサンに愛想振りまく犬といて知り合いは遂にオッサンばかり
滑らかなかたちで町を闊歩する犬がときどき紫陽花を嗅ぐ
傾けた傘の滴が犬の背にこぼれてそのまま夕闇になる
月明かりケンタウルの影が出て 犬の眼の色の空を見上げる

藤田 美香 @w_isana

この傘、さして

花曇り傘を忘れた夜だからさくらの坂を手つなぎ走れ
手のひらの隙間からはらこぼれゆく花腐す雨まだやまぬまま
みつしりとのしかかってくる月見えぬ夜の隙間に雨音を聞く
雨の庭ひそかに咲ける薄紅の紫陽花だったふたりの日々は
この傘はさせないんだと呟いた背中見送る六月の夜
雨の朝コーヒー店にいるひとは逃亡者の顔をしていて

藤森 岬 @xk5RX1A8F46kxkn

Receive

ソーダ水 色とりどりに彩られ生まれた意味はいまだ知らざり
産むことをいまだ知らざるこの二人かすかな雨に傘をさすかな
好きな人思い切り好きと言いたし冷たき水で皿を洗いつ
水色のゴミ回収車はつなつの狭き路地よりひねり出でくる
雨上がり青空うつすにわたくし 父への愛は伝えがたしも
銀河よりたった一つの命享く 口移しする水生ぬるし

梶原 一人 @MrDekopin

献血と人

てきばきと働く看護師が捌くB型400mlの男性
充分な濃さがありますと寝かされて血をとられる人の集まり
ごうごうと唸る機械に繋がれて小さなテレビ画面と並ぶ
モニターに映るひかりが人間から抜いた血を正確に数える
28歳男性の血液が身元不明の血液になる
三杯は飲んでください血液を再生産する容れ物として

がね @amicus08

大雨の予報

雨の日に思い出す人雨の日のバス停でだけ出逢う不思議な
ぼたぼたのしずくもろとも傘袋市バスは揺れながら発車する
紫のレインコートの両肩が濡れているので色がやや濃い
湖と山に挟まれた町ではアップテンポで天気が変わる
引越しの知らせが届く東京は湿度が低い羨ましいな
大雨の予報を見てる夜勤の日テレビを消して布団にもぐる

廻れ井戸 @kareido111

ミネラルの味

指先を濡らした水の一生はグラスハープを奏でて閉じる
触れたとき痛い冷たさ感じたら水道水は生の証明
口数のとても少ない友達が分かったと言ったミネラルの味
遠くにはまだ行けぬから思い出でぬるいばかりの水面に触れる
飲み干した命はきつといつの日か私を伝い私へ還る
蛇口から落ちる雫のその先に広がる町はきつと平和だ

河岸景都 @kate_kawajishi

水
雫

夜の間にひらきし百合の蕊を切りきょうの窓口業務を始む
回収をされないままの水銀が人の温度にほそくふくらむ
シュレッターの肩捨てている真ひるまを吹雪く八甲田山に立てり
居るのみに華と呼ばれし頃もあり歳末のそら底抜けに晴れ
見ぬうちに瘦せたるような冬の川 女流の流つてなんなんだろう
あけがたの米研ぎ汁に顔あらうわれはのっぺらぼうとなりゆく

沼尻つた子 @numatsuta

あめがふります

Teamsのこちらはミュート雨音はそちらからだけ共有される
水滴が垂れ下がりがつつ落ちそうで落ちないままに膨らんでゆく
樹の下にベンチがあつて枝からの雨垂れたちの座る場所です
ほら今日も皆中だねえ雨粒が波紋の的をびしゃびしゃ射抜く
側溝の蓋の下には雨がいてずいぶん陽気についてくるんだ
ゆるやかに雨はわたしを浸食し柔軟剤の匂いを脱がす

ネコノカナエ @nekonokanae_uta

ビキニかう

足腰と女の肌の草臥れた母は乳房の汗水を拭く
あてがへる瓶に入らぬ小水が尻に回つて身に染みてゐる
消毒の昔はどれも滅菌す今は水道水で良しとす
申し訳程度に着けるビキニからスクール水着の日焼け跡魅す
野次飛ばす暴言を吐く杉田水脈議員の口を塞ぐフェラチオ
宮崎美子のビキニ眩しき頃思春期は水風船の如

菊池洋勝 @kikutite

不完全犯罪未遂

人体の六割は水 心臓をめぐる殺意も水でうまれた
「殺すって言っちゃだめ」との忠告に殺されていくお冷の水
輪を持ってない天使もいるねテーブルの水の跡地はとぎれとぎれだ
リアリティ みんな氏名を持っていてぬるくなろうとお冷はお冷
いた席にスプレーされるアルコールたしかに水は溜まれば腐る
人体の六割は水 水ではない四割のせいで殺人は罪

君村類 @kmmr_109

光と色のスコール

さんざめくゲリラ豪雨は傘分かつ耳に囁く君の音だけ
陽光が反射し「眩しいな」くしゃりと笑う君に湖畔煌めく
雨降りて手を振る君の頬も濡れ「泣いているのか」「ううん、雨だよ」
転がった水に伸ばした指先にひやり触れた虹色のネイル
透明の夏の丸屋根ひそむ陥涙と記憶黒文字で切る
泡ばちん弾け溢れるしゅわしゅわりパンツと高鳴り潤う夏は

玻璃砂丘 @fox0426onigiri

流される

雨粒がまつすぐ顔に落ちてくる涙を流せなくつてごめんな
水色というけど水に色はなくペールブルーのさびしさを抱く
あたたかい雨に打たれているときの自由さ 犬のように死にたい
海までの距離をなぞっていく地図のうえで私はほとんど鳥だ
クレッシェンド しだいに強くうつくしく即興曲のような雨音
流す水流される水すみやかにシャワーを浴びておやすみなさい

春原シオン @haruhara_sion

そうみつ

驟雨一蹴躑躅の蜜に毒あるを知つてなお摘むこのうすあかり
産まれてのちその身の内に取り込んだ水の数だけ花育めよ
基督の飲む乳釈迦の飲む乳のなまぬるさ思ふ木椀を手に
どくだみの花群軒並み筆られて庁舎裏へと満ちゆく異臭
深更のスノードームに詰められた水のごとくにゆけよ翻車魚^{まんぼう}
水無月晴天感極まれば潮吹き空満つ虚蜜そらみつやまと

中村成志 @nakam8

再生

何度でもあめかんむりをあげるから だめになつてもまたあげるから
水際をひとり進めば静けさはこの世のものと思えないほど
すれ違う人から霧雨の匂い 戻つておいで遅くはないよ
夢だつてちゃんと分かつた眩しくてやまない雨の降る場所だつた
どこまでも泳いでゆけるしたかな尾びれがほしい光る尾びれが
水鳥の飛び立つときの明るさが目覚めのようにまだ覚えてる

ナタカ @utanataka

水の昏さ

湖がある 君の微笑みの中 そこにかなしい舟の浮かんで
君と僕に降るべき雨をさがしたいひしゃげた傘をはばたかせたい
君ならばたやすく漕いでゆくだろう私の中の水の昏さを
溶けきれない私を容れた水槽が漂う夜の青緑色
あの雲が虹に恋するはかなさで抱きしめたなら忘れなかった
あきらめの雨が降るから踊ろうかアンドロイドとウィンナ・ワルツ

桐野黎 @Tower1710

遣伝子は残さない

水道のゆるい蛇口のちよぼちよぼで頭痛をおこす私の羊水
羊水がうずく痛みは遣伝子を残す気がない神の怒りか
母という文字に隠れた海になる雪解け水をつくらないからだ
先妻の子供がいるからダムになり水蓄えよあなたのために
シャボン玉が円グラフ書き屋根の上はじけた水が頭上にかかる
掌で掬う真水のようにきく君が伝える言葉のすべて

黒須紗里菜 @TUKI226

遅効性

毒蛇の棲まう鉢の中心に闇を湛える湿原がある
殺さない程度の毒を強欲な牙が何度も注ぐ くるしい
首筋を這う毒蛇が意地悪な熱と痛みと光を残す
湿原に空が映つて簡単に片付けられない感情になる
体温はゆるゆる下がる乱暴な蛇行の余韻を夜が包んで
悪夢ではなかったことは憶えてるアスファルトの黒一部だけ濃い

榎原もか @kikaraneko

アンデルセンのメントスコーラ

「崖の上のポニョ」を観た日の夕飯はたいい即席ラーメンですね
私は貝になりたい。そして死後、人魚姫のブラになりたい
恋をして声を失う。愛のため足を得る。これがとーかこーかん？
返り血を浴びても浴びても浴びても人魚になれない生き物でした
人魚姫はYouTubeになりました。アンデルセンのメントスコーラ
ぼくたちは「大橋のぞみ 現在」で検索をしてしまう生き物

西淳子 @jacky244Ray

誰かの恋

一年前 生まれて初めて恋をした 梅雨の季節は恋の季節
雨が降る 時間もなぜか幸せだ 脳が確かに恋をしている
雨の日も気にせず濡れていきそうな あの人のこと考えている
この恋も 作品にする自分だし 失恋だつて怖くはないよ
『永遠の片想いなら幸せだ』キーボード打つ 雨、窓を打つ
恋をした、失恋をした、後悔はどこにもないよ梅雨明けの時

こうげつしずり @umisorayoru

アネモネの記憶

惨憺と無様に枯れた花手水君に見られず死ねてよかった
ぐるぐると排水溝に流されて海を目指した君の精液
真夜中の波打ち際で口付けを ふたりいっしょに人魚になろう
雨音がしんと鳴る部屋の隅目覚まし時計壊れたままで
投げつけた花瓶が割れる深夜二時 水飛沫舞うアネモネの恋
注がれた電気ブランの琥珀揺れ失くす境界とろけてたゆむ

5月に生まれた、 @Woodsorrel_25

魚は涙を流さない

雨ふれば街は水族館になるバスの四角い窓の向こうに
くるしくはありませんかの問診も魚は涙を流さずにいる
スイミーの鱗がほしいときどきは勇気を抱く御守りとして
ひかりより遅く産まれたからだろう水はひかりの弟のよう
夢のなかゴミ収集車がやってきてわたしを海へ運んでしまう
生きている化石のような生活にシーラカンスの深いねむりを

古閑弓子 @yumikoky

川底にて

くるぶしに肉つきにくくスニーカーソックス踵へ踵へ沈む
嘴でつくくみなもはゆれやすく小鳥は浮いたままに潤う
びょうどうにプールの時間があつた夏一生ぶんの消毒をした
川底へ沈んでいれば生きているのちは重きうすい魚に
めぐすりの苦さが喉をくだりゆき水位があがるとぐれなない橋
夕立にすこしひろがる傘売り場おもいだす傘今ほしい傘

漕戸もり @muramy3939

梅雨生まれ

自転車のサドルに残る雨粒を拭えばそこは平穏な朝
ブリーツをほどいていつた夕立のような言葉を投げかけられる
つらいのかもしれないことも水たまりみたいに分かりやすかつたらな
新聞をくしゃくしゃにして詰めるたび柔らかなるローファーでした
ペランダのサンダルすこし湿っててそういうときの話をしたい
梅雨生まれだからわたしは雨が好きと思えるように紫陽花を見る

茅野 @white2autumn

雨をききつつ

さみしさを正方形につめこめば雨の止まないインスタグラム
船を漕ぐ きみまで届かない日々をどこまでも波さか立てながら
間違いと知っててふれた指さきは間違つた熱ばかりを孕む
ゆるやかな偽りだからあいしあう遠く遠くに雨をききつつ
公園の濡れた芝生に冷やされて たいだいま、わたし ここが日常
大丈夫 体には海が詰まってるときき目から溢れたりする

千原こはる @kohagi_tw

乾かない体

公園の蛇口に髪を押し当てて胸まで伝う水の清しさ
ぐるんぱのなみだおおいあれくらいきちんと泣いていればよかった
思春期のナイフをすん、と受け止めて汁の滴る瓜の成熟
一度押すだけでいいのか教えてよカルピスソーダあふれてしまう
解体中のビルに水撒き虹の出るこんな終わりがよかったのにな
銀色の魚群一度にひるがえる品川駅の朝を夢見て

西藤智 @hionosulab

青を見下ろす

空も街も樹々も私も足跡もロイヤルブルウに染まる明け方
右頬に落ちて涙に擬態する一分後には気化する何か
滴れば波紋 波紋 波紋 いつか世界に融けるやうにしづまる
傘に付く雫を払ふこともなく脛を濡らしたままの坂道
天泣と言へば人間らしくなる空を仰げばまた泣く空は
葉の上の雫のふるへを知つてなほその先にある青を見下ろす

酒匂瑞貴 @sakawa_mi

しんじょうさん

新しい小さな街の噴水は水泡みづたまりのように生まれては消え
今ももう無い噴水に住んでいたしんじょうさんという名の稚鯉
真っ白な身体に赤い丸一つ載せて泳いでいたしんじょうさん
噴水が弱まり苔が兆しても日ごと育っていたしんじょうさん
スーパ―と共に噴水壊されてしんじょうさんのその後を知らず
青空に時折泳ぐ日の丸を載せた巨大な鯉のまぼろし

月硝子 @gesshodo

透明な

人は地球をまねして生きる午前二時 涙のあとを洗い流して
やわらかく耳を当てれば血のかよう誰の胸にも潮騒がある
あるだろう白く濁った氷壁も透明だった日の思い出が
うすく塗るハンドクリームここにある命を明日もめぐらせるため
液体の水のなごりを告げている笑ったような岩肌のしわ
ながればし 旅の終わりに一度だけ光ってこの星に燃え尽きよ

堂那灼風 @shakufu

わがまな空模様

ここに早い夏があるから晴れ間にはフルーツパーラー前にたずむ
熱っぽく話すあいだに水玉の傘もあなたも乾いてしまう
左手にかばん右手に紺の傘 そっと優しく避けられて、駅
梅雨は梅雨真夏は真夏傷は傷 やはり上手に生きられずいる
もう別に海に行きたい恋じゃない 天気予報は外れたそがれ
あなたには水色の街私には灰色の街 梅雨のさなかの

たえなかず @suzusuzu2009

墓標

王様は愛する王妃を納めたり タージマハールは真白き墓標
水無月は何とつまらぬ夢だろう 首かすかに振る薔薇の葬列
飲んだくれ昨日の恋を投げ捨てて 白い月出るゴミ集積所
紫陽花に小さな小さな雨蛙 六月の雨は何も語らず
腕を上げ胸の奥まで深呼吸 水は清らに私をみたくして
岸壁に海の墓標とつぶやいて雨の降らない街に帰ろう

多香子

田村稔隆 @Da_Ho_Ra

きれい

きれいってなんなのだろうなぜ水で流せばすべてきれいになるの
ねえそれはきれいになったのではなく水で汚れているんじゃないの
体内の半分以上吾も君も水に汚されながら生きてる
でも君はきれいだ汗をかいても泣いても涎垂らして寝ても
ゆらゆらと揺れる水面にはじかれた光や虹も確かにきれい
信じたいものを信じている人に浴びせる水はきれい？ きたない？

瀬口美和 @abcdefghijklmiw

髪されているのは？

朝靄に空と湖面が繋がったあの日からもうずっと眠い
白黒の海の写真に海面は火星を包む地平のようで
行列に蟻の遺体を運ぶ蟻ももうすぐ雨が降る午後の庭
どのカーブミラーも少しくなだれて雨にうなじを 麗されている
霧ふかく満ちる草原その家に住んでいるのは祖母の祖父の祖母
洗われて洗われすぎて砂浜の砂もうなにもおもいださない

水無月のきみ

岸边かう

梅雨空をきみの笑顔がふきとぼす 涙にぬれた心が晴れる
約束ね 次のデートは糸島の海沿いにあるカフェに行こうね
さあざあと雨の降る音、聴こえます きみの街でも聴こえますか？
紫陽花が一雨ごとに色づいてきみの心も変わっていった
言えなくて飲み込んだきみへの思い ひとつひとつを海へとかえす
おめでどう 水無月生まれのきみがまた三ヶ月だけ歳上になる

海の底まで届いたよ六月の雨に祝福された写真が
せせらぎに混じりはじめた金の糸 夜の気配に君の手を取る
この胸にぽこんぽこんと湧く水がたぶんあなたに恋を伝えた
人參の皮を厚めに剥く母のような水道局のやさしさ
水圧を最大にして水を撒く花壇を超えて虹がかかって
岸边から言葉のひとつみずうみに浮かべ波紋が消えてゆくまで

佐々木萌 @19moesasaki29

塩本。2381 @tankanosio

水面

水無月

はつなつのあかるい雨を避けながら赤い傘にてきみに会いにゆく
速さとか遠さのことを言ったのち水紋を見る、夏の水面の
夜闇にも花は香って早すぎた告白のこと悔やんでしまう
川底へしむ王女の絵の中に鈴なりの花、そこだけ白く
水際に立てばさみしさ透き通る月さえきみは身のうちに飼い
もうここで降る花びらを浴びながら夏への門になってみようか

雨の日の戸板の匂い表札に銀次とあつて金太をさがす
もう止むよ、古くて暗い喫茶店の適切に熱いコーヒーを飲む
湖の水の匂いのふるさとの話ぼつぼつ横顔のまま
差し出せばこころは川のようにだから咲くこの花は梅花藻という
優しさと無知は似ているわかつてる今はトマトに水をあげない
ただ海を眺めるだけの宿に来て、ぬるい温泉、きみのうたた寝

むこうはな @s_hanai11

嶋田むくろ @sakrako0304

廻るしずく

春の夜に雨粒は溶けあかると水溜まりにだけ姿を見せる
撥水と想っていたら浸み込んでわたしは水に包まれてゆく
水を脱ぐ 乾いた水はこの部屋の空気となってわたしに触れる
あたらしく体に入れるために汲む水にもすこしさっきの雨が
雨を飲む 降らせはしない隅々に満ちてわたしの潤いとなれ
静けさに顔を出す月この濡れた夜にひかりを柔く溶かして

清水晴架 @haru_uka24

グレーチング

月光の飛沫だろうか濡れている臉に気づかないふりをして
たしか雨上がりのはずの描きかけのあなたの青い絵はゆうまぐれ
溢れてたミルクを舐める猫たちの背中をあまくあまく波打つ
たぶんもう終わるんだらうときどきは湿度の海に浮かぶとしても
でも何度でも呼ぶよ、でも声帯を震わすことはないはず二度と
嵌められたグレーチングのしにいてなお輝けるばらばらの月

西鎮 @xi_zhen_ivUT

雨雲と

青梅が売り場に並ぶより前にこの町に來たせつかな梅雨
水面に映った空が揺れだして雨の時間が今日も始まる
新しい傘のデビューの日に迷う土砂降りはいや霧雨もイヤ
やんだかを知りたくて見る窓の外まだ水紋が水溜りに浮く
めりはりが効いている空さっきまで降っていたのにいま夏の顔
眠りから浮上しかけて雨音に聞き入るうちにまた夜のなか

諏訪灯 @_skydew

夜を越え

眠れずに川を見に行く黒々とまなこのような水面に語る
滴のなか投げた木の枝言い出せぬ願いと共に沈め底まで
白雪に寝転び腕を動かせば地面に残る天使のかたち
肺に満ち泡立つ水は最期までもが苦しみ沈んだ証
涙さえ川となるのだ尽きもせぬかなしみがなぜ海とならずや
海をゆく蝶を見送る羽ばたきどうか春まで届けと祈る

さいや @petichante

雨が来る

三匹の猫が入って来れぬよう水のボトルを三つ並べる
あかときの自転車道にしらじらとピクトグラムの自転車死せり
雨が来るのを待つんだそして歌に詠むそれが「こつ」だと彼女は言った
ぼくらは川へ洗濯に（生まれて初めて）行きました 街に、大地に、血の匂う夜
自転車の少女の背負う水玉のリュックが朝の辻を曲がりぬ
夏は朝。「時間がないの」と言いながら私は雨について行きました

雀來豆 @jackbeans2

渚へ

これは川。流してしまえと聴こえるの。桜川つてどこにでもある
これは池。汚れてしまえと囁いた。校舎の裏で幽霊を見た
これは沼。落ちていければそれが楽。夜も寝ないで話しをする
湖か。わたしが名付けた感情を。噴水絶えずに虹を作って
これは海。思い出すのは瀬戸内海。あの明るさは破壊の火花
さあ渚。わたしはきみの声を奪いあの境目を行くのでしょうか

鈴木智子 @cfun820_ts

水音を紡いだら

外の音なのにの音？ 雨の音？ くるまを洗う音？ 聞いたことない
雨となりスクール通いの君のコートのしずくとなり流れ散る
駅前路地盤や不動産屋雨パティンクの音響く歩け
水溜まりに浮かぶ空へ飛ぶ小石世界をこわした私自身
頭蓋骨を指のはらで押さえると立ち現れる深海の底
紡いだら海になる糸を垂らして枯れた体をぐるぐる巻きに

セサミスペース M @sesamespace_m

水晶のころ

六月は毎朝ひとつ夏になる ちゃんとした雨ちゃんとした風
コーヒーの湯気は軽やかつま先でペトリコールの波間をぬけて
缶底を覗けば光るハッカアメお前はそこで水晶となり
いつもより海が近くにあるような気がする波浪警報が鳴る
本当に赦されているのだろうか水蜜桃のひかりを犯す
夜更けまで話していたい宇宙とかメロンソーダのパニラのこととか

園塚はる @sonozukaharu